



発行・カトリック水巻教会
 編集・広報委員会
 遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
 〒807-0025
 TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
 第347号

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

イエス・キリストとの出会い マヘル神父

今の日本の道路は美しい、つつじの花で壁掛けの模様のように。

皆さん、桜の花・つつじの花と花見を楽しまれましたか？今の風景は神様の恵みを表しています。2011年ベネディクト16世が、『信仰年』の開催を告示されました。

今のパパ様が『いつくしみの聖年』を定めて実行していますが、二つの方針とは繋がりがあ、改めて考えて見たいところです。

すなわち、イエス・キリストとの出会いと、イエス・キリストを信じることの素晴らしさを新たに意識しましょう。教会は、今日、信仰が直面しなければならない問題を良く自覚し、イエスご自身が述べた問いかけの現代的な意味を感じています。「人の子が来るとき、果たして地上に信仰を見出すだろうか」(ルカ 18・8) そのため、「イエス・キリストとの出会いによって、信仰が活力を回復し、深い確信と現実の力とならなければ、他のあらゆる改革もいつまでも効果を上げることが出来ません。キリストの光から出発して、教会の深い本性と、現代世界との関係を深めることを望みました。「教会は聖伝全体との継続性と、教導職の確かな導きのもとに、豊かな教えの受容と適用に努めました。」

小教区のレベルで中心となるのは、典礼、特に感謝の祭儀における信仰の記念です。何

故なら「信仰の神秘であり、新しい福音宣教の源泉である感謝の祭儀の中で、教会の信仰は、告げ知らせられ、祝われ、強められるからです。」そこから他のすべての行事が生まれ、成長し、広まるように促されます。

キリスト信者にとって最も親しい方である、イエス・キリストを再発見し、分かち合うことです。

イエス・キリストは人間の贖い主、世界の王『信仰の創始者また完成者』(ヘブライ12・2)です。主イエスへの新たな回心と、信仰の再発見に役立つことを望みます。それは、教会に属するすべての者が、復活した主の信頼における喜びに満ちた証人となり、多くの人を『信仰の門』探そう導くことが出来るようになるためです。私達のミサでこの指導を実現しましょう。

典礼に参加して、つつじの花の美しさの恵みのように典礼の恵みを、毎日曜日、また毎日感謝して頂きましょう。

| | |
|--------------------|------|
| 林神父様黙想会ミサでの説教・2・3面 | |
| 委員会等報告 | 4面 |
| 神学生紹介 | 5・6面 |
| 初聖体式等写真 | 6面 |
| 幼稚園から | 7面 |
| お知らせ | 8面 |
| 教会学校 | 8面 |



林神父黙想会 ミサでの説教

先日の黙想会の主に講話での内容は、信徒の皆さん方に書いて頂きました。ここでは、ミサの説教について、ピックアップしてお伝えします。

<神の愛が達している>

神の国の意義について、教皇ベネディクト 16 世の回勅があった。神の實在は、未来にあるものではない。ここに**神の愛が達している**。これがカトリック教会の教えである。

私の子供時代を思い出すなら、「ただいま！」と家に帰って、母の用意してくれたサツマイモがあれば食べるが、なければ、ランドセルをポイとおいて、外に遊びに飛び出した。ここでサツマイモに**母の愛が達している**と言える。

ある時のミサの最中に、私には、聖体が神の国とわかったときがあった。ピンと来た！その時には、神の国が、ホスチアに**達していたはず**だ。

次の様な素晴らしい出会いがあった。僕が足の骨を折ったとき、下関の駅のホームを足取り遅く、カバンを持ちにくそうに歩いていくと、多くの人が、「すいません、すいません」と、脇を通り過ぎてゆく。まるで、サマリア人の例えの通り過ぎる人々の様だった。

そこに、おばさんが現れ、僕をじっと見る。それから、僕のカバンを「貸しんしゃい」と言って、持ってくれる。おばさんは、足が速いのでそのまま、先まで行ってしまふ。しかし、階段下で僕を待ってくれる。その場所に僕がたどり着くと、また「貸しんしゃい」とカバンを持って、先まで行き、また僕を待っている。僕がたどり着くと、また「貸しんしゃい」と。最後に、ここでいいですと言って、別れる。僕は心から感激した。

<私たちはどこへ向かうのか>

具体的なまなざしが大切である。私達は、神の愛に具体的に生きている。今日の聖書朗読は、放蕩息子のたとえだった。僕の居る日和山の教育センターでは4Fなのにエレベーターがない。その歩いて上がる4Fに、放蕩息子の御絵がある。それを毎日見て、「お父さん、お許し下さい。」という言葉を毎日、思うようになる。そして祈りも行う。

私たちは、私たちにとっての父、すなわち神のもとに帰る。私たちはどこから来て、どこへ行くのか？私たちは神から来て、神に向かう。昔の公教要理の時代には、覚えさせられたものだが、皆、これが分かっていない。出発点分からないから、どれだけ進んだかもわからない。出発地と目的地が分からない人類。人類は父のもとに帰る。

<人類には回心が必要>

人類は気が付いた。回心する人間、和解する人間であるべきことを。四旬節には、「父なる

神に進んでゆく」という大きな回心をして、一人一人が具体的な回心をする。父のもとに帰る。多くの場合、他人に対して上から目線。相手の言うことを聞いてない。心の中で切れている。適当にするか！との思いがある。もうあの人はいいや、と、心の中で切っている。

人間として生まれた以上、人を大切にする。なぜ、神が人を大切にするのか。

「すべて存在する人」を神が愛している。日本では、死刑制度が合法であるが、EUでは、加盟国の条件が、死刑制度のない国であること。人類は和解に乗って、良い方に向かっている。聖霊が働いている。

<和解の道はできる>

市長さん(下関市長)は私のしもべだ！公務員は市民に仕えるものだから。原発の廃止について、「今更、止める訳にはいかない」というが、この「今更」が何を意味しているか、が問題。和解はできるのだ。喧嘩しても和解ができる。イエスは虐殺されても和解の方法を示した。今日も、私たちは父のもとに向かう。

<もう一度、新しく生きる>

四旬節の目標は新生。もう一度新しく生きる。回心の秘跡も受けて。目標を設けて。

今年の秋、溝部司教も先に逝った。但し、それはこの世の生と死の話。私たちの生き方には死はない。永遠の生のみがある。時間が経てば、伝えられる。

神と私たちに交わりができる。生命現象的なものではないが、教会と命の関係。イエスと私の関係。神と私達に交わりができる。

<交わりができる>

神と私たちに交わりができる。教会と命の関係。イエスと私の関係。神と私達に交わりができる。命。私はあなたのもとに戻る交わりが永遠。神と私たちに交わりができる。そして、生きる。私はあなたのもとに戻る。神の方から、交わりを切ることはない、だから、神の愛が来る。

放蕩息子の弟は死んだはず、交わりを切ったはず。しかし、その彼が帰ってきた。それを神はずっと待っていた。今は、私の方から出ていくべきだ。

<アジアにおける神>

池永大司教は、アジアの人にとっては「父なる神」よりも、「母なる神」と言った方がよいかも、と言った。愛のかたまり、無限大の愛=これを大切にすべきだ。神に向かって、「父よ」と言う。もう一度「父よ」と

(広報委員 三谷)

委員会等報告

2016年4月分

4月度小教区委員会 4月10日

1. 前委員会の議事録の確認

特になし

2. 先月の行事報告

- ・3月24日 聖木曜日 46名
- ・3月25日 聖金曜日 57名
- ・3月26日 復活前夜祭 111名
- ・3月27日 復活祭 初聖体 161名
初聖体 山田蓮君 永山楓海君
- ・3月25日 ホームレス炊き出し
参加 13名 110食提供
費用 22,000円
残りは教会へ献金(4000円ほど)

3. これからの活動予定

- ・特になし

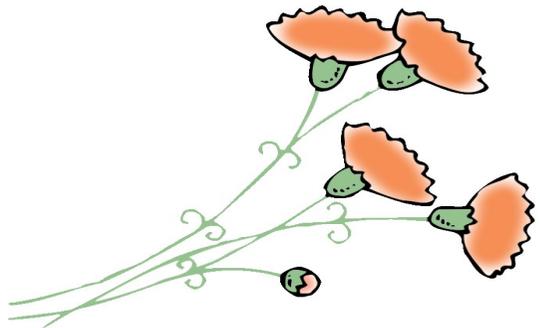
4. その他

- ・4月10日(日) 10時より
カトリック南粕屋教会信徒会館落成式
- ・4月29日(金・祝) 14時より
フランスコ牧山善彦助祭司祭叙階式
神奈川県カトリック二俣川教会
- ・4月16日(土) 14時より
谷口神学生助祭叙階式 新田原教会
- ・4月24日(日) ミサ後 パーティー
マヘル神父様 叙階50周年のお祝い
小田神学生の歓迎会

5. 議題

- ・今年度信徒総会の日程
次回の小教区委員会で決める。
6月5日又は12日の予定で計画中。
- ・役員改選
選考委員会に場を移し、検討を実施。

以上



選考委員会(委員長の改選)について

- ・4月3日・10日の2回に分けて、候補者と意見を集め、協議する場を設けた。
- ・4月3日 臨時委員会で各地区からの推薦者を確認
推薦者に対する確認事項が出たため、次週に持ち越し。
- ・4月10日 2名の推薦、承諾を確認し、候補者の選考を行う。
この結果について意見交換するも、意見は大きく2つに分かれた。
候補者を1名に絞るが、推薦者と立会人とでこの結果の話し合いをする方向となった。



水巻教会のみなさま、こんにちは

日本カトリック神学院 神学科 1年生

フランシスコ・アシジ 小田武直 (おだ たけなお)

フランシスコ・アシジ 小田武直と申します。東京の西の方、小金井教会の出身、35才、さる年です。私は、東京の隣の千葉県で生まれ、小学生の真ん中くらいから、東京で育ち、今まで関東から外に出て暮らしたことはありませんでした。このたび初めての九州暮らしに、わくわくドキドキ、胸をおどらせております。無類の電車好きで、ふらっと知らない土地を行き廻るのが趣味なもので、こちらに来てからも、帰りに寄り道をして、香椎線に乗り、玄海灘を眺めてきたりすることがありました。他に趣味というと、子供のころにピアノをやっていた、神学院に入り、オルガンを弾くようになりました。

私は、6年前に洗礼を受けたばかりの新しい信者で、急速にこの道に導かれ、神学生として歩みを進めることになりました。初めて教会に足を踏み入れたのが、15年くらい前のことで、聖公会の教会だったのですが、ちょうど人生に悩んでいたころ教会と出会い、その牧師さんの話に惹かれて、通うようになりました。しかし、その後就職や転居など環境の変化の中で、教会へは行かなくなり、数年前に久し振りに、カトリック教会に立ち寄ることがあり、そこで再び通ってみようと思い立ち、洗礼の恵みを頂くまでになりました。

しばらく、信者として静かな歩みを送っていたころ、人から勧められて、修道会の黙想会に行くことがありました。その中で、修道院の静かで平和な生活スタイルに触れ、だんだんとその生活にあこがれを抱くようになり、神父様に召命のことを相談するようになりました。その際、神父様に信者としての年数も短いので、教会の活動など色々見てきたらとアドバイスされ、そうしているうちに、様々な出会いに恵まれ、教区司祭を目指す神学院へ進むことになりました。本当に、不思議な神様のお導きを感じています。

私の霊名はアシジのフランシスコで、洗礼前に神父様から自分で考えておくように言われ、決めたものです。フランシスコの聖人伝には、自分の人生に重ね合わせやすいエピソードがふんだんにあり、特に回心の物語が大好きです。彼が戦に敗れて、失意のうちに帰還する途上、聞こえてきた神の言葉「あなたは今まで愛し、求めてやまなかったものを、取るに足らない、いらぬものと思うようになり、今まで、忌み嫌い恐れていたものを愛し、望むようになる。」との言葉によって、着ていた高価な甲冑を貧しい兵士にやり、恐れていたハンセン病患者に近づき抱擁した、とのエピソードは、私が信仰に至るまでの歩みを、力強く勇気づけてくれたメッセージでありました。その言葉を信じて歩んできた果てに、神学院に来ることになりましたが、幸せな道を与えられたと今では思っております。

東京にいたとき、JOCという青年労働者のための活動を見せてもらったことがあり、パ

リ外国人宣教師会の神父様にも、お世話になっておりました。北九州はJOCが盛んな地域であると聞いておりましたので、色々教えて下さいましたら幸いです。水巻教会は、九州の古い信仰の伝統と、北九州の労働者の町としての新しいありようと、両方の良い要素が、交じり合っていると聞いており、ここで様々な経験をさせて頂けたらと願っております。

なにとぞ、よろしくお願い申し上げます。



<写真ページ>

初聖体が行われ、
お祝いも渡されました。



林神父・黙想会の風景です。
しばしば聖堂前から、中央まで移動され、
さながら。熱弁という感じでした。





お知らせ

★特別献金★

3月25日

聖地のための献金

22,700円

4月10日

カテドラル献金

23,300円

ご協力、ありがとうございました

★特別寄付★

次の方よりご寄付をいただきました。

赤間地区の松畑様

芦屋地区の原田カズ子様

中間地区の永山司様

ありがとうございました。



【帰天】安らかに！

3月22日

◇宗 サワさん (折尾地区)

3月24日

◇橋本 フミ子さん (芦屋地区)

【初聖体】おめでとう！

3月27日

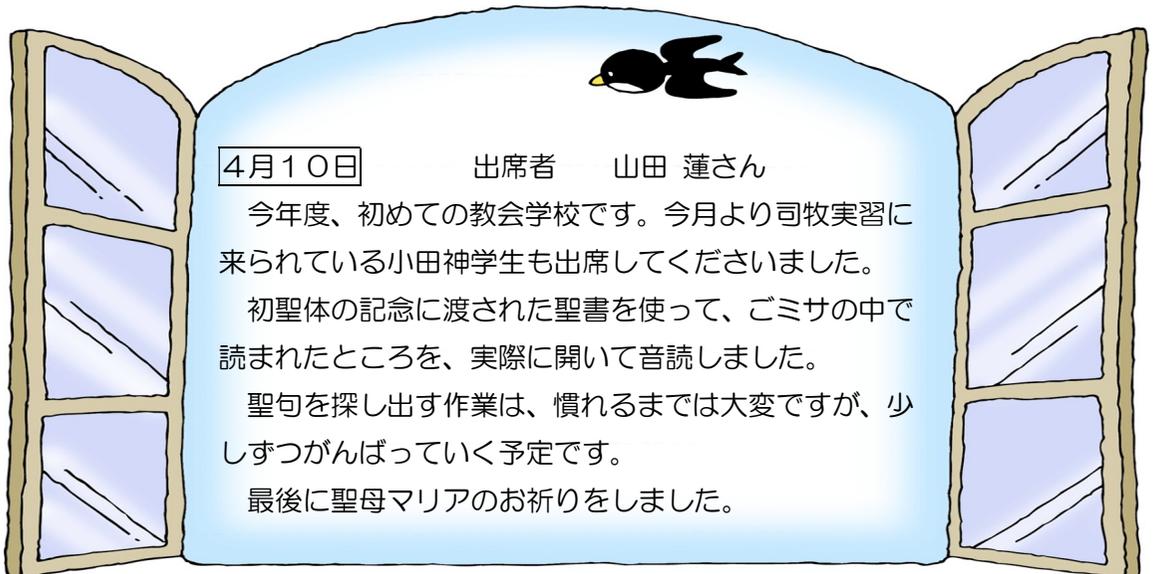
◇永山 楓海さん (中間地区)

◇山田 蓮さん (吉田地区)

※ 当日の写真は6面に載せています
ので、ご覧ください



教会学校のページ



4月10日

出席者 山田 蓮さん

今年度、初めての教会学校です。今月より司牧実習に
来られている小田神学生も出席してくださいました。

初聖体の記念に渡された聖書を使って、ごミサの中で
読まれたところを、実際に開いて音読しました。

聖句を探し出す作業は、慣れるまでは大変ですが、少
しずつがんばっていく予定です。

最後に聖母マリアのお祈りをしました。